



国税局
部長



●平成13年入庁
福岡国税局課税総括課長、国税庁個人課税課補佐、嘉悦大学教授、仙台国税局課税第二部長などを経て令和7年から現職。
大阪国税局 査察部 部長
田村 英好

多様なフィールドでの
経験を生かして

国税庁
課長



●平成5年入庁
留学(ハーバード大学)、東松山税務署長、財務省主税局企画官、東京国税局課税第三部長、東京国税局課税第一部長、名古屋国税局総務部長、国税庁デジタル化・業務改革室長、国税庁個人課税課長などを経て令和7年から現職。
国税庁 長官官房 企画課 課長
大柳 久幸

巨大政府機関の
経営幹部の一員として

総合職で国税庁に入庁すると

今年度のある日、私は大阪国税局査察部長として人材育成の方針について検討していました。組織の将来に関わる大切な仕事です。1年前は仙台国税局課税第二部長でした。お酒の業界をサポートするべく担当職員との議論を重ねていました。そのためには意見を出しやすい部内の雰囲気づくりが重要です。2年前は東京にある嘉悦大学の教授でした。学生に授業や論文指導をしていました。この3年間、毎年、仕事の内容が異なり場所も様々です。このように国税庁総合職入庁者は多様なフィールドで仕事をすることになります。

国税局の部長として

国税局の査察部長である私が直接現場に出て調査をすることはありません。私の仕事は現場で日夜奮闘する査察官がパフォーマンスを最大限に発揮できるようマネジメントをすることです。マネジメントについては、冒頭に書きました人材育成の方針の検討や議論しやすい雰囲気づくりもその一例です。また、マネジメントをしていく上では、それまでの多様なフィールドでの経験を生かしていくことも必要です。そのようなマネジメントが総合職に求められていることだと思います。

総合職を目指そうとしている皆さんへ

毎年のように業務や勤務地が変わることをプラスにとらえて、その経験を生かしたマネジメントにより、現場で働いている職員を支えることは地味かもしれませんが、その積み重ねが国の財政の一端を担うことになります。そこに意義を感じて多くの方に国税庁総合職を希望していただきたいと思っています。



大学での講演会の様子



部長室の様子

税務行政の将来を考える

税務行政は、太古の昔から綿々と続く、国家の財政の基盤を支える一大事業ですが、その本質は、歳入の確保に向け、自主的に納税しようとする納税者を支援しつつ、悪質な納税者には厳正に対応することを通じて、納税者が自発的に納税義務を履行してもらう環境をつくり、適正課税を実現するところにあります。しかし、国際化が進み、仮想空間での活動も活発化、経済活動も複雑化の一途をたどっていますが、国税庁は、国民から負託された、30年前と同じマンパワーの範囲内で目的達成に向けて努力していかなければならない状況に置かれています。これを打開するには、税務の現場が直面する課題を適切に把握し、その達成に何が必要なのかを考え、その実現に向け、デジタルの力を借りながら、ビジネスモデルを刷新していく必要があります。そして、これを遂行していくうえでは、税務行政や税制への深い理解と、税務行政全体を俯瞰した洞察力、経営マインドが不可欠なものとなります。



全国国税局課税部長会議の様子(個人課税課長時代)

業務のやりがい

私は現在、将来に向けて税務行政をデザインし、その実現に向けて全体の進捗を管理する部門の責任者としての立場にあります。これまでの経験・知見はもちろん、自分の価値観も問われているような、責任の重い立場ではありますが、他方、どのように税務行政を方向づけるかを考え、周囲を巻き込んで議論し、実現に向けて主導できる立場でもあり、長年税務行政に携わってきた一税務職員としては、この上なくやりがいがある業務だと考えています。

学生の皆さんへのメッセージ

国税庁総合職採用者には、究極的には、国家の一大事業である税務行政を担う将来の経営幹部として、組織のマネジメントを担うことが求められています。国税の業務は、税制・税務行政という高い専門性・公正性が求められる中で、現実的な法執行も行いながら、組織全体の経営を考慮することができるものであり、知的好奇心を満たしながら、そして成長しながら、自分の創造性を発揮し、社会正義の実現に貢献できる仕事といえるのではないかと思います。チャレンジ精神をもって、将来の税務行政を牽引してみたいと思う意欲溢れる方と、一緒に仕事ができるのを楽しみにしております。